



いなほ

稲積神社社報

第65号

令和8年 大祭号



祝祭日には国旗を掲げましょう

令和7年度 正ノ木例大祭

12・31	12・15	12・3	12・1	11・23	11・15	11・3	11・1	10・18	10・15	10・12	10・3	10・1	9・15	9・13	9・3	9・1	8・15	8・3	8・1	7・15	7・15	7・3	7・1	6・30	6・15	6・3	6・1	5・31	5・15	5・15	5・5	5・4	5・3	5・2	5・1	5・1
年越大祓	神恩感謝祭	月次祭	月始祭	新嘗祭	神恩感謝祭	月次祭	月始祭	拔穂祭	神恩感謝祭	金比羅神社例祭	月次祭	月始祭	神恩感謝祭	崇敬会大祭予定	月次祭	月始祭	神恩感謝祭	月次祭	月始祭	瘡子社例祭	神恩感謝祭	月次祭	月始祭	夏越大祓	神恩感謝祭	月次祭	月始祭	御田植祭	神恩感謝祭	成就祭	三之祭	二之祭	正ノ木祭例大祭	前夜祭	献木祭	月始祭
	八時三十分	八時三十分	八時三十分	八時	八時三十分	八時三十分	十時	十一時三十分	八時三十分	十一時	八時三十分	十時	八時三十分	八時三十分	八時三十分	十時	八時三十分	八時三十分	十時	十一時三十分	十一時	八時三十分	十時	十七時	八時三十分	八時三十分	十時	十一時	八時三十分	十七時	九時	九時	十時	十八時	十時	九時

令和八年 祭典予定表

所感



宮司 根津 泰昇

を思い出しました。高梨選手はこの四年間非常に苦しく辛く色々な思いで押し潰れそうになった時もあったでしょうが、立ち直り復活してきたことは精神力を培う日常生活を営んできた証かなと感じます。

スポーツ観戦好きの私には四年に一度の楽しみな冬季オリンピックがイタリアのミラノとコルティナ・ダンペッツォで二月六日から二十二日まで開催され、メダルの数も最多の二十四個を獲得しました。特にスノーボード日本代表は合計九個(金四個・銀二個・銅三個)のメダルを獲得する大飛躍を遂げました。若い世代の選手の技術向上には目を見張るものがありました。私の感覚ですと、大滑降のスピードですら凄さを感じますのに、空高く舞い上がり、回転を繰り返し着地する技にはただただ驚くばかりです。二十歳前後の選手たちの常日頃の努力は計り知れないものを感じました。

スキージャンプ混合団体では、初のメダルとなる銅メダルを獲得いたしました。前回北京大会では高梨沙羅選手が服装違反で失格となったこと

「おかげさま」という謙虚な心「恩恵を心から有難い」と思う心、神恩感謝祭はこのような心を養う神事でもあります。毎月一日の月始祭にも「謝恩詞」(しゃおんじ)の祝詞を参列者一同で奉唱しております。

「謝恩詞」は神様の御恩恵に感謝の誠を捧げる祝詞です。趣意は、有難い御恩恵によりまして、衣食住をはじめ日常生活のすべての事柄をお願い申し上げたところ、成就できるように、お導き頂きました事に感謝いたします。今の世も後の世も、常に、こうした楽しみ喜びが、少しも変わることはないように深い御恩恵をお授け下さいます事に感謝申し上げます。を述べる祝詞です。

メダリストたちの競技を終わった時の言葉は、応援の感謝、支えてくれた人々への感謝、家族への感謝の気持ちが見えられていました。

感謝とは

神社に於いても毎月十五日には「神恩感謝祭」が斎行されています。この神事は日常生活を営む上で万物の恵みを授かり、人々の心に触れ、生かされている事への「おかげ」に真心を捧げる神事です。

感謝の心は

「はい」という素直な心「すみません」という反省の心

正ノ木祭り実行委員長に就任して

正ノ木祭り実行委員長 長 湯 英 規



このたび、令和八年より稲積神社正ノ木祭り実行委員長に就任することになりました。長湯英規でございます。また、副実行委員長には、常若会会長の花輪武彦様、小林宏至様

が就任されました。お二人にお力添えいただけることは、私にとっても大変心強く心よりありがたく感じております。そして、長年にわたり本祭りに運営にご尽力され、昨年

まで実行委員長として大きな柱となつてこられた藤本浩様に、心より敬意と感謝を申し上げます。

私は稲積神社と四十年前にご縁をいただき、以来神輿会「稲積陸」の会長として三十九年間務めてまいりました。三年前高山政宏君に継承しこれからは、一崇敬者として静かにご奉仕していくつもりでお

りましたが、稲積神社の総代であります五味様、高山様、西野様の強い推挙をうけ、さらに宮司様からも要請を賜りました。その言葉を私は大神様の声と受け止め、今回の大役を引き受ける決意を固めました。

また、今年二月には、長きにわたりお世話になり、深いご縁をいただいた小尾武総代会長が急逝されました。祭典にとつて大きな柱を失う

出来事であり、悲しみは尽きません。生前小尾総代様から「あなたが受けるんだよ」と温かいお言葉をいただいております。その想いを胸に、微力ながら務めを果たす覚悟でございます。私は、稲積神社の外郭団体の崇敬青年会、常若会にも所属し長年にわたり神社と祭典に関わってまいりました。時代の変化や社会の多様性が進む中、昔ながらの祭典を継承することは、様々な制約の中で年々難しさを増して

おります。失われていく伝統文化もありますが、守り継いでいかなければならない伝統も存在します。

さらに、正ノ木祭りの未来を担うのはこれからの若い世代の皆さんです。是非、多くの若者にご奉仕へ参加していただき、伝統を引き継ぎ次の時代へとつないでいきたいと願っております。祭りを通じて得られる経験や学びは人生の糧となり地域の誇りを育むものです。そしてなにより正ノ木祭りは、稲積神社の外郭団体、崇敬者、地域、祭典関係者の皆様のご支援、ご理解、ご協力があつて成り立つ祭典です。長年にわたり支えてくださった皆様のお力添えに心より深く感謝申し上げます。これからも変わらぬご支援を賜り、共に祭りを育てて来へつないでいければ幸いです。最後に本年度正ノ木祭りが無事盛大に執り行われること、そして皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。

珠算上達祈願（そろばん塚）

二月二十二日、梅の花も咲き初め小春日和を思わせる穏やかな日、日本珠算連盟山梨支部のご関係者、そろばんを習っている子供達ご参列のもと、珠算上達祈願祭が斎行されました。

この神事は、例年そろばん上達と珠算教育の発展を願ひ齋行されるのですが、本年は三月一日に開催された「ちびっ子珠算競技大会」の前に、参加者の勝利も祈願されました。

神事終了後は、境内の「そろばん塚」の横に絵馬を掛けました。この「そろばん塚」の由来は日本商工会議所が主催する全国一斉に行われた珠算能力検定が、昭和五十五年十月二十六日に第百回を記念し、先賢の遺徳をしのぶとともに、珠算教育の発展を願ひ建立されたものです。

実際に、そろばんを習っている児童が参加するのは初め

となり、「そろばん塚」の横に絵馬をかかげ、目を輝かせ、自分達の珠算の上達を願う姿は、是非そろばんを通して出来た！という喜びや楽しさを育んでいって欲しいと感じた神事となりました。どうぞご参拝の折にはぜひ「そろばん塚」をご覧になってください。



そろばん合格・上達祈願絵馬



そろばん塚



参加者と絵馬掛



合格・上達祈願の玉串拝礼

小尾総代会長を偲ぶ



小尾武様の 神社界の職歴

平成九年 稲積神社総代に就任
平成十六年 責任役員に就任
平成十九年から四期十二年に
渡り山梨県神道政治連盟副本
部長を務める。
令和五年より山梨県神社総代
会会長を務める。 現職



総代
内田 清

小尾武総代会長におかれましては、去る二月十三日御逝去なされました。突然の訃報に接し、驚きと悲しみで一杯です。

先日の節分祭の折にもお目にかかり、お元気なお姿を拝見していましたし、ゴルフの話や仕事の話、健康の秘訣などをお話していただきましたので、未だにお亡くなりになられたことが信じられません。

小尾様は、稲積神社の総代会会長として、総代七名を束ねられ、また山梨県神社総代会会長、山梨県神社庁甲府支部総代会会長としても御活躍をされてきました。小尾様には、神道の更なる発展のために益々のご活躍が期待されていただけに誠に残念でなりません。

小尾様がお亡くなりになられた今は、残された総代達でなんとか神社を守り立てていかなければならず責任の重さを痛感しています。時の流れは、人の悲しみと

関係なく続き、神社の諸行事も今までどおり続きます。小尾様には、天国から神社の繁栄をお見守り頂き、私達に力を貸して頂きたいと思えます。小尾様の御冥福を心から祈り申し上げます。

総代
高山 政 宏

初めに二月十三日にご逝去されました小尾武様に接し心よりお悔やみ申し上げます。まだ私の心の中は深い悲しみと寂しさでいっぱいですが、これまでの小尾さんとの思い出を書かせて頂きます。

私にとって父親のような存在であり、時の節々で温かく導いてくださった大切な方でした。ライオンズクラブではクラブ内をまとめ老壮青の隔たりがないクラブ、友愛と相互理解の基に日々精進するを私達に教えて頂きました。

神社では、われわれ稲積陸会の顧問をして頂きいつも「私は陸会が大好きだ」と口癖の様に、また私達が総代会に入る時にも神社も継承して

崇敬会友の会 会長
大森 丘

小尾さん長い間神社にご奉仕ありがとうございました。まさか、まさかの突然でありご本人様ももとより、ご家族の皆様も大変だった事と推測しております。

謹んでお悔やみ申し上げます。私も神社友の会の会長として約二十年ほどになります。が、おそらく小尾総代の神社へのご奉仕は五十年以上ではないかと思われま。友の会にもほとんどご参加いただきました。先日の三月の友の会は寂しかったです、ですのでいつも小尾総代が座る席に私が座らせて頂き小尾総代への思いを偲ばせて頂きました。

もしかするとそこは俺の席だよ、と怒っていたかも知れませんが小尾総代と初めて出会ったのは私が前職岡島時代でした。その頃からお付き合ひ頂きました。仕事もそうですが私はその頃にゴルフにはまり、小尾総代と何度かゴルフをさせて頂きました。小尾さんの紹介で静岡方面にもお付き合

いかなければいけないと強い言葉で導いてくれました。神社の行事も常に高山君と行くのが楽しみで息子という様だ、お酒を共にしても高山君にはなんでも話せると言った言葉、今でも忘れる事が出来ません。まだまだ沢山叱られ、話がしたかったです。最後の思い出は昨年十一月九日、小尾さんの誕生日に米寿のお祝を神社関係者も含めて出来た事、恵方参りで伊東の温泉でゆっくり話せた事、沢山ありすぎて言葉が尽きません。

米寿のお祝の席では涙を流しながら話をされた言葉、皆さんとお酒を飲みながら楽しそうな顔、奥様への感謝の言葉すべて思い出して皆の心に残っていると思います。

伊東の夜は温泉でいろんな事を語り、宴会では細雪を歌った事も忘れられません。本当に沢山の思い出をありがとうございました。さようならは言いません。

私達が小尾さんがいる世界に入った時にまた楽しい話、楽しいお酒を共にしましょう。長い間お世話になりました。

いをいただきました。その頃を思い出しますと、懐かしいです。惜別の念を禁じ得ません。ご功勞に敬意を表すとも心からご冥福をお祈りいたします。

崇敬青年会 寺田義彦

未だに信じられない。小尾総代が居ない現実、それを受け入れるのは、まだまだ時間がかかりそうです。明るく、お元気に、稲積神社の真ん中で輝いていた小尾総代。小尾総代の笑顔と笑い声が鮮明に残っています。

小尾総代の周りには多くの人が集いました。私も、稲積神社の関係からご縁を頂戴し、長年にわたり言葉に尽くせないほどのご厚情を賜った者の一人です。秘書時代から様々なご指導を頂きました。ライオンズクラブ、無尽会、旅行やゴルフなど、稲積神社で頂戴したご縁から、小尾総代と数多の経験と時間を過ごさせていただきました。今の私があるのも、稲積神社と小尾総

代のお陰です。

いつも優しく、時に厳しく。小尾総代から頂戴した愛情と御恩は生涯忘れることはありません。そして、小尾総代に最後まで示していただいた人生の歩み方は、私にとってかけがえのない指針であります。今こうして筆を執りながら、改めて小尾総代に誓います。謙虚に、誠実に、まっすぐに、前へと進んでまいります。小尾武総代、本当にありがとうございます。



境内の石碑

まよい子志るべ石

「甲斐名所双六」には「正ノ木」が登場する。十八世紀前半に甲府勤番士を務めた野田成方が記した「裏見寒話」にも正ノ木祭りについての記事があり、「四月三日（現・五月三日）祭禮、参詣群を成す」とある。大勢の人でこつた返す様子が目に浮かぶ。

雑踏で心配となるのが迷子。この迷子発見の対策として役立っていたという石柱が、今も同神社の一角に残っている。「まよい子志るべ石」と文字が刻まれている。言い伝えなどによると、「まよい子志るべ石」は江戸時代、正ノ木祭りで迷子が多いことから造られたもの



で、迷子の目印とされていた。「迷子がこの石に触ると神業が起り、たちどころに父母が現れる不思議な石」と「ご利益」が伝えられてきた。

石柱の右側には「たずねる方」、左側には「志らする方」と刻まれていて、文字の上部には長方形のくぼみがある。右のくぼみには、迷子となった子供の名前や特徴などを書いた紙を、左側には、右側に張られた紙を見て心当たりの子供の様子を書いた紙を張ったのではないかと、ともいわれている。長年の風雨に打たれ、刻まれた文字は読み取りにくくなっているが、現在でもこの石柱を頼って、家出人や尋ね人を探す人が同神社を訪ねる。（現在は北参道石側に十二支の灯籠の原形と共に保存されている。）

文珠の石 三ノ宮卯之助

全国各地に残る「力石」は、個人の力を必要としている



時代の民俗学的文化遺産であり、「力」は経済を支える重要な要因であった。当社の力石は全国最多の力石に名前を残す「三ノ宮卯之助」の物であり、「文珠の石」とも言われ、石の上に手を置き願いの事を述べ三回廻れば叶えられるとされる。神仏混淆の時代の名残で御祭神は妙徳菩薩とされ、御神徳は智慧証の三徳となる。古い時代よりの口伝えにより、今の時代は受験合格や学業成就に徳があるとも言われている。嘉永二年に奉納されている。

三ノ宮卯之助は現埼玉県越谷市の出身地であります。本年も四月一日に越谷市郷土研究会の皆様が視察に訪れました。

伊勢神宮御朱印拝受旅行を終えて

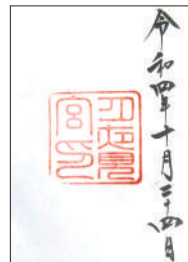
甲府伊勢講 講元 小野 忠

稲積神社甲府伊勢講は、今回で六十回を迎えました。昭和四十年伊勢神宮の参拝を第一回として、昭和四十七年を二回目として今回で六十回を迎える事が出来ました。最初は初詣をかね伊勢神宮へと行って居りましたが、だんだんと参加者が少なくなつてしまい、宮司様の発案で日本全国の神社仏閣を参拝する千社参の旅行が始まりました。ちなみに稲積神社甲府伊勢講千社詣での企画は伊勢講協賛、千塚八幡神社、恵比寿神社、稲積神社崇敬会などの関係各位の協力でありつづけています。昭和四十年より令和七年までの、間で二十二回の伊勢神宮新穀感謝祭と内宮、外宮、の御朱印拝受の旅を続けて来ました。又北海道から沖縄までの神社、仏閣を廻ってきました。御朱印帳は六冊となりました。又最近五年は「両宮の御朱印の旅」となりました。伊勢神宮は内宮（皇大神宮）外宮（豊受大神宮）両正宮の別宮は、月読宮、瀧原宮、倭姫宮、伊雜宮、外宮は月夜見宮、五社です。第一回は、内宮の月讀宮の旅、新しい旅のエチケット（新型コロナウイルス感染症防止対策のマスク着用、手指消毒）の中での旅行、第二回目は外宮別宮の月夜見宮に旅、全国旅行支援「おいでよ」みえ旅キャンペーンが開始され、支援内容は、旅行代金の割引@八、〇〇〇円を予定、旅行中使える地域クーポンが三、〇〇〇円での旅行でした。参加者が四十七名になりました。御田植祭は国の重要無形民俗文化財に登録され日本三大田植祭の一つといわれています。五回目は内宮の別宮の瀧原宮皇大神宮の「別宮」大紀町に鎮まる宮です。三十七名の参加が有りました。令和八年第六十一回の伊勢講の旅行ですが第六十三回「神宮式年遷宮御木曳行事」になります。伊勢神宮の社殿などの建て替に使う檜の御用材を、全国の崇敬者が御用材を外宮へ曳き入れる行事です。すでに八十名の参加が有ります。伊勢講はこれからも楽しい旅行を行います。

別宮五社の御朱印



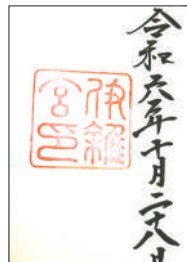
月讀宮 (内宮の別宮)



月夜見宮 (外宮の別宮)



倭姫宮 (内宮の別宮)



伊雜宮 (内宮の別宮)



瀧原宮 (内宮の別宮)

令和八年恵方参りに参加して

稲積陸 河口 潔

二月六日から七日にかけて、稲積神社様主催の恵方参りに参加した。日々の慌ただしさを少し離れ、季節の境目に身を置く二日間であった。初日は三島市の三嶋大社へ、二日目には熱海市の来宮神社を正式参拝する行程である。冬晴れの柔らかな光が降りそそぎ、土地に古くから息づく社の気配に触れるにつれ、心の奥のざわめきが静かにほだけていくのを感じた。

三嶋大社は、伊豆国一之宮として古くから篤い崇敬を集めてきた。祭神は大山祇命と積羽八重事代主神の二柱で、三嶋大明神と総称される。創建年代こそ不詳ながら、伊豆諸島を『御島』と尊称したこと由来する社名の響きには、遠い時代の人々の畏れと祈りが静かに漂っている。古代には火山の力を畏れ、神を祀ったと伝わるという。境内

には、国重要文化財の社殿が厳かな姿で佇み、樹齢千年を超えるキンモクセイが深い影を落としていた。参道の空気は凜と澄み、歩むほどに心が整っていく。源頼朝が百日参籠したとの伝承が残り、武家の息遣いすら感じられる。キンモクセイの季節ではなかったが、代わりに早咲きの河津桜が柔らかな色を湛え、春を少し先取りしたような明るさで迎えてくれた。

翌日は熱海の来宮神社へ向かった。『来福・縁起』の神として古くから信仰を集める社である。祭神は日本武尊、五十猛命、大己貴命の三柱。和銅三年、漁師の網に三度かかった木の根を祀ったことが創祀とされ、『木の宮』という名の由来にもなっている。

なかでも圧倒されたのは、樹齢二千年を超える大楠であった。幹を一周すれば寿命



来宮神社御神木

が一年延びると伝わり、悠久の時に内に宿すその姿の前では、ただ静かに手を合わせるほかなかつた。二日目はあいにく雨となつたが、境内の緑はいっそう深みを帯び、湿り気を含んだ空気はどこか柔らかく、前日の三嶋大社とはまた異なる包容力に満ちていた。

こうして二日間、歴史と自然の営みに触れながら歩んだ恵方参りは、私の心身を静かに整え、春を迎える前の節目として、確かな清々しさを胸に残してくれた。

靖国神社参拝に参加して

常若会 小田切 千穂

兼ねてから予定が合えば参加したかった靖国神社参拝に初めて参加する事が出来ました。

生憎の雨でしたが寒さも和らぎ、雨脚も強くなかぬ桜雨と言えぬ風情が期待出来る空模様でした。

息子が小中学生の頃、熱心に剣道を習っていたので武道館に行く機会が多く何度かは訪れておりましたが、まさか

正式参拝に参加する機会が来るとは想像すらしていませんでした。

到着すると雨の中多勢の観光客で賑わっていました。バスを降り参道を歩いて行くと巨大な高さ二十五mの第一鳥居をくぐり、大村益次郎像を横目に過ぎ神門の直前に青銅製で日本一の大きさを誇る第二鳥居がありました。靖国と

方のご案内で本殿に起きました。

本殿に鎮座する御神鏡の大きさはやはりこちらに眠る英霊の数を表しているのかと勝手な想像を膨らませながら、本殿の厳かな空気を堪能し参拝を終え遊就館へと足を進めました。やはり雨の桜も良いものでした。参拝の二日後の

三月二十八日に標本木の満開が観測された様です。この時期は夜桜詣も行われ賑わうとの事でした。

そして遊就館内へ。一般的な私の思考では神社＝宝物殿ですがこちらはやはり一線を画しており軍事史博物館であります。日本の戦争の歴史が網羅されていて見応えがありました。平和を獲得する為に戦う事が必要とされた時代を生きた人々、尊い命を捧げなくてはならなかった様々な戦争、戦った敵も味方も国籍、民族、宗教の違いを越えて皆



靖国神社社殿の桜の標本木

が手を携えて平和で豊かな世界を作る事、誰もが思いは同じはずなのに今も戦争は形を変えながら続いています。私の中では神社というのはいつも清々しく清廉なイメージですが靖国神社はそうとは言えません。戦争と言う痛ましい歴史を伝えていくには参拝者の心中に残さなくてはならないと思います。よってこの日本の特別な場所は他とは異なる空気感が漂うのかもしれない。次回は晴れた日に参拝出来ればと思います。

夏越大祓

六月三十日、今年半年間の罪穢れを祓へ清める夏越大祓式が十六時より斎行されます。人は生かされている証として、残食したり、一言言葉が足りず誤解を生じることがあります。この様な事の反省をするのも大祓式です。



除災招福守り

茅の輪守り

前半の半年を祓へ清め、後半の半年がより良い年になるように、茅の輪くぐり神事に参列しましょう。どなたでもご参列いただけます。茅の輪守りは玄関にお祀り下さい。茅の輪は六月十五日から七月六日まで設置してあります。どうぞお参りください。

令和8年 戌 (いぬ) の日カレンダー

5月	12日 (火)	仏滅	24日 (土)	大安		
6月	5日 (金)	大安	17日 (水)	先勝	29日 (月)	先勝
7月	11日 (土)	先勝	23日 (木)	先負		
8月	4日 (火)	先負	16日 (日)	仏滅	28日 (金)	仏滅
9月	9日 (水)	仏滅	21日 (月)	赤口		
10月	3日 (土)	赤口	15日 (木)	先勝	27日 (火)	先勝
11月	8日 (日)	先勝	20日 (金)	先負		
12月	2日 (水)	先負	14日 (月)	仏滅	26日 (土)	仏滅

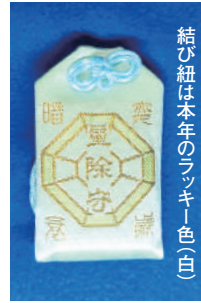


安産守

安産祈願の由来

安産祈願は神様に参詣し懐妊の報告と無事出産を祈願する行事です。戌の日が選ばれるのは犬が安産であったため犬にあやかって戌の日に祈願するようになりました。近年はご都合の良い日を吉日と定めお参りなさる方も多くなりました。

星除祈願



●凶方位に新築、増築、改築、開店、進出、遠方旅行、移転行為をする人
●歳破を受ける六白金星の星の人
●衰退運の六白金星の星の人
●突動運の六白金星の星の人
●暗剣殺を受ける六白金星の星の人
結び紐は本年のラッキー色(白)

厄除祈願

運勢学でみる厄年の大厄は衰退期の衰退運に回座する年を言います。男性は昭和六十年生、女性は平成六年生の方です。男性の昭和四十一年生、平成十四年生は生気興隆の為に生気が増大するので注意の厄。女性の平成二年生・平成二十年生は八方ふさがりの注意の厄です。以上の方は厄除祈願をお受け下さい。



厄除守

令和八年厄年表 (数え年)

大厄は三十三歳	女の厄年			大厄は四十二歳	男の厄年		
	前厄	本厄	後厄		前厄	本厄	後厄
36歳 平成3年生	32歳 平成7年生	18歳 平成21年生	前厄	60歳 昭和42年生	41歳 昭和61年生	24歳 平成15年生	前厄
37歳 平成2年生	33歳 平成6年生	19歳 平成20年生	本厄	61歳 昭和41年生	42歳 昭和60年生	25歳 平成14年生	本厄
38歳 昭和64年生 平成元年生	34歳 平成5年生	20歳 平成19年生	後厄	62歳 昭和40年生	43歳 昭和59年生	26歳 平成13年生	後厄

七五三

子供の成長に感謝し、これからの無事を祈ってお参りします。三歳は「髪置(かみ)



成長を祈願する玉串拝礼

おき」と呼ぶ男女とものお祝い、五歳は男子の「袴着(はかまぎ)」、七歳は女子の「帯解(おびとき)」のお祝とされています。江戸時代より「十一月十五日」に参拝するスタイルに定着しましたが、現在ではお子様のお誕生日に合わせて、またご家族皆様が揃いになる日、お子様の体調を考慮してなどそれぞれ日程、ご都合にて通年参拝となります。かけがえないお子様の成長をご家族皆様でお祈りし、心に残る大切な時としてください。